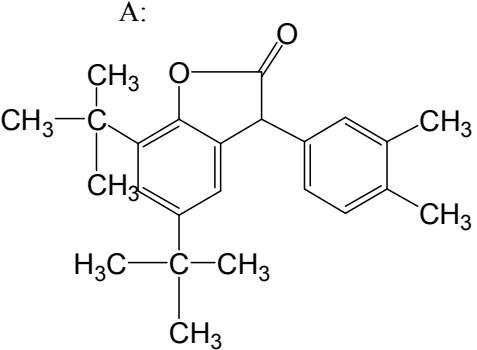
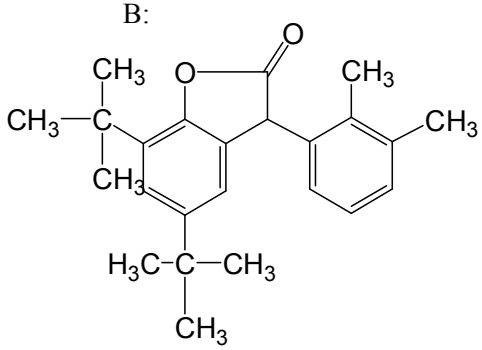


既存化学物質審査シート(人健康影響・生態影響)

(平成19年10月26日開催)

官報公示 整理番号	CAS No.	物質名称	判定結果		頁
			人健康影響	生態影響	
5-6597	—	5, 7-ジ-tert-ブチル-3-(3, 4-ジメチルフェニル)ベンゾ[b]フラン-2(3H)-オンを主成分(80%以上)とする5, 7-ジ-tert-ブチル-3-ヒドロキシベンゾ[b]フラン-2(3H)-オンとo-キシレンの反応生成物	二監相当		1
3-74	108-70-3	1, 3, 5-トリクロロベンゼン		三監相当	4
3-74	120-82-1	1, 2, 4-トリクロロベンゼン		三監相当	6
2-1941 2-1955 2-2188	126-72-7	トリス(2, 3-ジプロモプロピル)ホスフェート (略称 TBPP)		三監相当	8
3-540 9-1805	128-37-0	2, 6-ジ-tert-ブチル-p-クレゾール		三監相当	10
2-31	6842-15-5	プロピレンテトラマー		三監相当	13
4-102	6864-37-5	2, 2'-ジメチル-4, 4'-メチレンビス(シクロヘキシルアミン)	二監相当 【告示済み】	三監相当	15

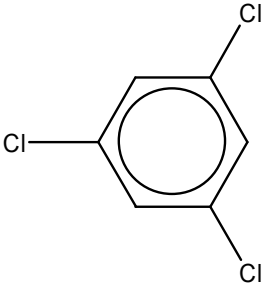
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-6597	CAS No.	—
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名 称：5, 7-ジ-tert-ブチル-3-(3, 4-ジメチルフェニル)ベンゾ[b]フラン-2(3H)-オンを主成分(80%以上)とする5, 7-ジ-tert-ブチル-3-ヒドロキシベンゾ[b]フラン-2(3H)-オンとo-キシレンの反応生成物</p> <p>略 称：CG33-1136、TKA40080/1A-ABC</p> <p>分子量：350.5</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>A:</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>B:</p>  </div> </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames【審 議済み】	陰性 TA102 を加えたサルモネラ 5 菌株と大腸菌 WP2uvrA を用いた方法で、プレート法により日本のガイドラインで提唱されている最高用量 (5000 μg/plate) まで実施。被験物質はアセトンに溶解。ただし、2500 μg/plate 以上の用量で被験物質の析出。		

<p>染色体異常【審議済み】</p>	<p>陰性 OECDガイドライン 473 に準拠した方法（連続処理法：18 時間処理及び 42 時間処理、短時間処理法：3 時間処理後 15 時間回復及び 3 時間処理後 39 時間回復）で、四連培養皿(Quadripermdish)を使用し、予備試験における細胞分裂頻度を指標として、50～80%程度の細胞増殖抑制が認められる以下の用量まで観察。</p> <p>〔本試験〕 連続処理法 18 時間処理：0.01875mg/ml 短時間処理法 3 時間処理後 15 時間回復：0.01875mg/ml</p> <p>〔確認試験〕 連続処理法 18 時間処理：0.02813mg/ml 42 時間処理：0.075mg/ml 短時間処理法 3 時間処理後 15 時間回復：0.02813mg/ml 3 時間処理後 39 時間回復：0.03751mg/ml</p> <p>被験物質はアセトンに溶解。ただし、0.03751mg/ml 以上の用量で被験物質による析出。短時間処理法の 3 時間処理後 15 時間回復群の確認試験において、倍数体の出現頻度が 10% 前後まで増加（ただし、最高用量の 0.02813mg/ml では 1.5%に減少）しているものの、本試験ではこのような増加が認められていないことから、結果に再現性が認められない。従って、当該処理群について再試験を指示。</p> <p>（再試験） 標準的な方法で、50%の細胞増殖抑制濃度を越える濃度（連続処理群：0.08mg/ml (0.04mg/ml まで観察)、短時間処理 S9(-)群：0.08mg/ml、短時間処理 S9(+)群：0.2mg/ml) まで実施。S9(+)群の 0.1mg/ml 以上で被験物質の析出。アセトンに溶解。結果は陰性。</p>														
<p>90 日間反復投与【審議済み】</p>	<table border="1"> <tr> <td>投与方法</td> <td>強制経口投与（溶媒：0.5%CMC-Na/0.1%Tween80）</td> </tr> <tr> <td>用量</td> <td>10, 50, 200, 1000mg/kg/day</td> </tr> <tr> <td>死亡</td> <td>1 例：1000♀（投与過誤による）</td> </tr> <tr> <td>NOEL</td> <td>50mg/kg/day</td> </tr> <tr> <td>推定根拠</td> <td>病理組織学的所見（肝一壊死・食細胞：200 以上♀）</td> </tr> <tr> <td>他の毒性</td> <td>血液学的検査(Hct ↓, MCV ↓, Hb ↓, MCH ↓, Ret ↑：1000♀) 血液生化学的検査(TP ↑：1000♀) 絶対重量(脾 ↑：1000♀) 相対重量(脾 ↑：1000♀) 組織学的所見(肝-リンパ組織球浸潤：1000♀、 甲状腺-濾胞上皮細胞肥大：1000♂)</td> </tr> <tr> <td>回復性</td> <td>肝臓-帯黄色々素食細胞集簇、リンパ組織球浸潤</td> </tr> </table>	投与方法	強制経口投与（溶媒：0.5%CMC-Na/0.1%Tween80）	用量	10, 50, 200, 1000mg/kg/day	死亡	1 例：1000♀（投与過誤による）	NOEL	50mg/kg/day	推定根拠	病理組織学的所見（肝一壊死・食細胞：200 以上♀）	他の毒性	血液学的検査(Hct ↓, MCV ↓, Hb ↓, MCH ↓, Ret ↑：1000♀) 血液生化学的検査(TP ↑：1000♀) 絶対重量(脾 ↑：1000♀) 相対重量(脾 ↑：1000♀) 組織学的所見(肝-リンパ組織球浸潤：1000♀、 甲状腺-濾胞上皮細胞肥大：1000♂)	回復性	肝臓-帯黄色々素食細胞集簇、リンパ組織球浸潤
投与方法	強制経口投与（溶媒：0.5%CMC-Na/0.1%Tween80）														
用量	10, 50, 200, 1000mg/kg/day														
死亡	1 例：1000♀（投与過誤による）														
NOEL	50mg/kg/day														
推定根拠	病理組織学的所見（肝一壊死・食細胞：200 以上♀）														
他の毒性	血液学的検査(Hct ↓, MCV ↓, Hb ↓, MCH ↓, Ret ↑：1000♀) 血液生化学的検査(TP ↑：1000♀) 絶対重量(脾 ↑：1000♀) 相対重量(脾 ↑：1000♀) 組織学的所見(肝-リンパ組織球浸潤：1000♀、 甲状腺-濾胞上皮細胞肥大：1000♂)														
回復性	肝臓-帯黄色々素食細胞集簇、リンパ組織球浸潤														
<p>一世代生殖毒性試験 (OECD TG415)</p>	<table border="1"> <tr> <td>投与方法</td> <td>強制経口投与（溶媒：コーン油）</td> </tr> <tr> <td>純度</td> <td>99.4%/99.5% (面積%、2 異性体の和)</td> </tr> <tr> <td>用量</td> <td>主試験：50, 200, 800 mg/kg/day 回復群：♂：50, 200, 800 mg/kg/day</td> </tr> <tr> <td>死亡</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>NOAEL</td> <td>一世代生殖毒性試験：<50 mg/kg/day</td> </tr> <tr> <td>推定根拠</td> <td>組織学的所見（精巣-セルリ細胞空胞化・残屑を伴うセルリ細胞・精子細胞滞留：50 以上♂）</td> </tr> </table>	投与方法	強制経口投与（溶媒：コーン油）	純度	99.4%/99.5% (面積%、2 異性体の和)	用量	主試験：50, 200, 800 mg/kg/day 回復群：♂：50, 200, 800 mg/kg/day	死亡	—	NOAEL	一世代生殖毒性試験：<50 mg/kg/day	推定根拠	組織学的所見（精巣-セルリ細胞空胞化・残屑を伴うセルリ細胞・精子細胞滞留：50 以上♂）		
投与方法	強制経口投与（溶媒：コーン油）														
純度	99.4%/99.5% (面積%、2 異性体の和)														
用量	主試験：50, 200, 800 mg/kg/day 回復群：♂：50, 200, 800 mg/kg/day														
死亡	—														
NOAEL	一世代生殖毒性試験：<50 mg/kg/day														
推定根拠	組織学的所見（精巣-セルリ細胞空胞化・残屑を伴うセルリ細胞・精子細胞滞留：50 以上♂）														

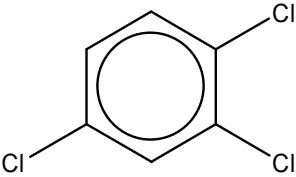
他の毒性	<p>体重↓：800♂ 血清テストステロン値↑：800♂ 絶対重量(精巣↓：800♂、精巣上体↓：200以上♂) 相対重量(精巣↓：800♂、精巣上体↓：200以上♂) 組織学的所見(精巣-精子細胞未成熟・円形精子細胞/精母細胞変性・精原細胞の再吸収/消失：200以上♂、精巣-胚細胞消失による精細管萎縮：800♂、精巣上体-無精子/精液減少・細胞残渣：200以上♂、下垂体-好塩基性/空胞化細胞増加) 生殖発生(妊娠率↓・着床率↓・同腹児数↓：200以上)</p>
回復性 (♂のみ)	<p>精巣↓、精巣上体↓、血清テストステロン値↑、精巣-セルトリ細胞空胞化・残屑を伴うセルトリ細胞・精子細胞滞留・精子細胞未成熟・円形精子細胞/精母細胞変性・精原細胞の再吸収/消失・胚細胞消失による精細管萎縮、精巣上体-無精子/精液減少・細胞残渣、下垂体-好塩基性/空胞化細胞増加</p>
追加試験	<p>800 mg/kg 15 週間投与♂と非投与♀を交配 交配率：83%、着床率：20%、妊娠率：0% 50 mg/kg 22 週間投与♂と非投与♀を交配 交配率：100%、着床率：100%、妊娠率：95.8% 22 週間投与+10 週間回復♂と非投与♀を交配 交配率↓・妊娠率↓：200 以上</p>
人健康影響判定根拠	<p>Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、90 日間反復投与毒性試験は NOEL50mg/kg/day であるが、一世代生殖毒性試験は NOAEL50mg/kg/day 未満であることから、継続的に摂取される場合、人の健康を損なう恐れのある疑いがあるため第二種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>チバ・ジャパン(株)より提供</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-74	CAS No.	108-70-3
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：1, 3, 5-トリクロロベンゼン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	<p>生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201(1984) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.11、0.22、0.44、0.88、1.8、3.5、7.0 mg/L 実測濃度 0.073、0.15、0.29、0.59、1.2、2.4、4.8 mg/L 助剤：THF 及び HCO-40(1:13) 98 mg/L 48hErC50（実測値に基づく）>4.8 mg/L 48hNOECr（実測値に基づく）=0.59 mg/L</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 純度：100% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.6、2.6、4.3、7.0 mg/L 実測濃度 0.81、1.3、2.2、3.5、5.8 mg/L（幾何平均値） 助剤：THF 及び HCO-40(1:13) 98 mg/L 48hEC50（実測値に基づく）=2.9 mg/L</p>		
ミジンコ 繁殖試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、週に3回換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.080、0.20、0.40、0.90、2.0 mg/L 実測濃度 0.062、0.15、0.32、0.73、1.6 mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 及び HCO-40(1:1) 60 mg/L 21dNOEC（実測値に基づく）=0.32 mg/L</p>		

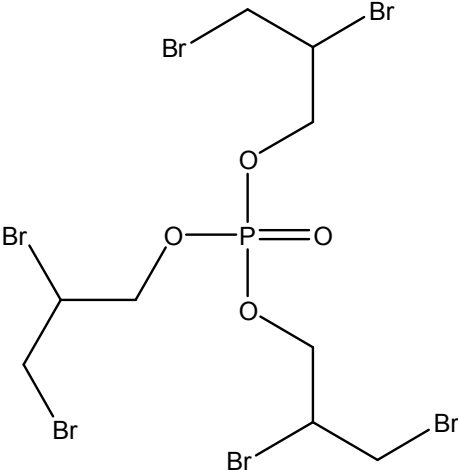
魚類急性毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.70、1.2、2.2、3.9、7.0 mg/L 実測濃度 0.56、1.0、1.8、3.2、5.7 mg/L（幾何平均値） 助剤：THF 及び HCO-40(5:66) 99 mg/L 96hLC50（実測値に基づく）=3.2 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.8 mg/L 群：異常遊泳（24h 5/10、48h 5/10、72hr 5/10、96h 10/10）</p>				
生態影響判定根拠	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50=3.2mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S50	0/95	—	0.02~0.2(μ g/L)
		S54	1/111	0.02	0.01~0.4 (μ g/L)
	底質	S50	0/95	—	0.001~0.1(μ g/g-dry)
		S54	18/111	0.0006~0.0247	0.0001~0.1(μ g/g-dry)
	魚類	S50	0/75	—	0.003~0.1(μ g/g-wet)
		S54	1/93	0.012	0.001~0.1(μ g/g-wet)
	雨水	S50	0/24	—	0.00002~0.0002 (ppm)
	大気	S61	7/73	1.0~8.6	1.0(ng/m ³)
H11		38/39、13/13	0.036~1.4	0.011(ng/m ³)	
魚類※2	H11	0/70	—	1(ng/g-wet)	
貝類※2	H11	0/30	—	1(ng/g-wet)	
鳥類※2	H11	0/10	—	1(ng/g-wet)	
環境調査 ※3	水質	H12	0/91	—	0.01(μ g/L)
	底質	H14	0/24	—	1(μ g/kg)
備考	<p>※1 S51、S55、S62、H12 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） ※2 生物モニタリングの結果については、直近のデータを記載。 ※3 H12、H14 要調査項目測定結果（環境省水環境部企画課） 対水溶解度：5.8 mg/L Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd ed.(1996)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-74	CAS No.	120-82-1
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：1, 2, 4-トリクロロベンゼン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201(1984) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：>99% 試験濃度：設定濃度 1.0、3.2、5.6、7.5、10 mg/L 実測濃度 0.66、2.2、3.8、5.0、6.2 mg/L（幾何平均値） 助剤：HCO-40 及びエタノール（1:3）100 mg/L 48hErC50（実測値に基づく）=5.7 mg/L 48hNOECr（実測値に基づく）=2.2 mg/L</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 純度：>99% 試験濃度：設定濃度 0.56、1.0、1.8、3.2、5.6 mg/L 実測濃度 0.55、1.0、1.7、3.1、5.7 mg/L（幾何平均値） 助剤：HCO-40 及びエタノール(3:2) 被験物質の 5 倍量 最大 28 mg/L 48hEC50（設定値に基づく）=1.4 mg/L</p>		
ミジンコ 繁殖試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式：半止水式、2 日毎に換水 純度：>99% 試験濃度：設定濃度 0.10、0.32、0.56、1.0、1.8 mg/L 実測濃度 0.09、0.30、0.53、0.9、1.6 mg/L（幾何平均値（0、2 日）） 助剤：HCO-40 及びエタノール(3:2) 被験物質の 5 倍量 最大 9.0 mg/L 21dNOEC（設定値に基づく）=0.10 mg/L</p>		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：流水式 純度：>99% 試験濃度：設定濃度 0.56、1.0、1.8、3.2、5.6 mg/L 実測濃度 0.51、1.0、1.8、3.0、5.1 mg/L（算術平均値） 助剤：HCO-40 及びエタノール(3:2) 86 mg/L 96hLC50（実測値に基づく）=2.4 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.0 mg/L 群：異常遊泳（72hr、96h）個体数不明 1.8 mg/L 群：異常遊泳（24h、48h、72h、96h）個体数不明 水底静止（24h 3/10、48h 6/10、96h 3/10）</p>				
他の毒性 情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用] 藻類に対する毒性として ・ EC50=1.4 mg/L、NOEC=0.37 mg/L ミジンコに対する毒性として ・ <i>Daphnia magna</i> EC50=1.2 ~3.39 mg/L、NOEC=0.06~0.36 mg/L 魚類に対する毒性として ・ Golden ide LC50=0.7 mg/L ・ <i>Brachydanio rerio</i> LC50=6.3 mg/L、NOEC=0.04 mg/L ・ <i>Pimephales promelas</i> NOEC=0.5 mg/L</p>				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ繁殖試験において 21dNOEC=0.10mg/L であり、魚類急性毒性試験において 96hLC50=2.4mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S50	0/95	—	0.03~0.4(μ g/L)
		S54	8/111	0.01~0.13	0.01~0.4 (μ g/L)
	底質	S50	3/95	0.002~0.022	0.002~0.1(μ g/g-dry)
		S54	33/111	0.0005~0.030	0.0001~0.1(μ g/g-dry)
	魚類	S50	2/75	0.1~0.2	0.0005~0.1(μ g/g-wet)
		S54	7/93	0.0003~0.008	0.0001~0.1(μ g/g-wet)
	雨水	S50	0/24	—	0.00003~0.0004 (ppm)
大気	S61	63/73	1.2~78	1.0(ng/m ³)	
	H11	39/39、13/13	0.12~40	0.009(ng/m ³)	
魚類	H11※2	5/70	1~3	1(ng/g-wet)	
貝類	H11※2	0/30	—	1(ng/g-wet)	
鳥類	H11※2	0/10	—	1(ng/g-wet)	
環境調査 ※3	水質	H12	0/91	—	0.01(μ g/L)
	底質	H14	0/24	—	1(μ g/kg)
備考	<p>※1 S51、S55、S62、H12 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） ※2 生物モニタリングの結果については、直近のデータを記載。 ※3 H12、H14 要調査項目測定結果（環境省水環境部企画課） 対水溶解度：49mg/L The Dictionary of Substances and their Effects.Vol.7(1994)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-1941、2-1955、2-2188	CAS No.	126-72-7
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：トリス(2,3-ジブロモプロピル) ホスフェート (略称 TBPP)</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201(1984) 培養方式：振とう培養 純度：97% 試験濃度：設定濃度 0.75、1.1、1.7、2.6、4.0[*]mg/L 実測濃度 0.50、0.76、1.2、1.8、2.7mg/L (幾何平均値) ※試験液調製可能最高濃度 助剤： DMF 100 μ L/L 72hErC50 (実測値に基づく) >2.7mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) =1.2mg/L</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 純度：97% 試験濃度：設定濃度 0.45、0.80、1.4、2.5、4.5[*]mg/L 実測濃度 0.43、0.75、1.4、2.4、4.5mg/L (幾何平均値) ※試験液調製可能最高濃度 助剤： DMF 100 μ L/L 48hEC50 (実測値に基づく) =4.2mg/L</p>		
ミジンコ 繁殖試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式：半止水式、毎日換水 純度：97% 試験濃度：設定濃度 0.15、0.35、0.82、1.9、4.5[*]mg/L 実測濃度 0.15、0.35、0.83、1.9、4.8mg/L (時間加重平均値) ※試験液調製可能最高濃度 助剤： DMF 100 μ L/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.83mg/L</p>		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 純度：97% 試験濃度：設定濃度 0.45、0.80、1.4、2.5、4.5[※]mg/L 実測濃度 0.41、0.73、1.4、2.6、4.9mg/L（幾何平均値） ※試験液調製可能最高濃度 助剤：DMF 100μL/L 96hLC50（実測値に基づく）=1.9mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.73 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（48hr 1/10、72hr 1/10） 1.4 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（48hr 10/10、72hr 9/10、96hr 10/10）</p>				
他の毒性 情報	<p>化学物質の環境リスク評価 第3巻（環境省環境保健部環境リスク評価室）より引用 藻類に対する毒性として ・<i>Scenedesmus abundans</i> 96hEbC50=3.1 mg/L</p>				
生態影響 判定根拠	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50=1.9mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S50	0/114	—	1(μ g/L)
	底質	S50	0/114	—	0.4~10(μ g/g-dry)
	魚類	S50	0/20	—	1(μ g/g-wet)
備考	<p>※1 S51版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） 対水溶解度：4.9mg/L（20℃）試験機関測定値 8.0mg/L（24℃）Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, Fourth ed., Volume 1 by Verschuieren, k., John Wiley & Sons, Inc.(2001)</p>				

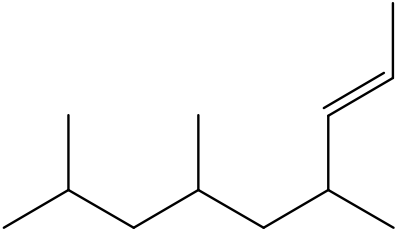
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-540、9-1805	CAS No.	128-37-0
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2,6-ジ-tert-ブチル-p-クレゾール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201(1984) 培養方式： 振とう培養（密閉系） 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 1.0、2.2、4.6、10*mg/L 実測濃度 0.81、1.7、3.9、7.0mg/L（幾何平均値） ※分散可能最高濃度 助剤： DMF 及び HCO-40(1:9) 100mg/L 48hErC50（実測値に基づく） >7.0mg/L 48hNOECr（実測値に基づく） =1.7mg/L ※暴露濃度区はすべて水溶解度以上に設定されており、得られた結果は水溶解度以上である。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.36、0.63、1.1、2.0mg/L 実測濃度 0.19、0.34、0.58、1.0、1.8mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 及び HCO-40(3:7) 40mg/L 48hEC50（設定値に基づく） =0.84mg/L ※水溶解度を超える濃度区でのみ遊泳阻害が観察されており、真の毒性であるかどうか判断できない。		

ミジンコ 繁殖試験	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.008、0.025、0.080、0.25、0.80mg/L 実測濃度 0.004、0.018、0.069、0.22、0.70mg/L (時間加重平均値) 助剤：DMF 及び HCO-60(21:4) 100mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.069mg/L</p> <p>※暴露濃度の一部は水溶解度を超えているものの毒性値は信頼できる。</p>				
魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.50、0.90、1.6、2.8、5.0mg/L 実測濃度 0.43、0.82、1.5、2.5、5.0mg/L (幾何平均値) 助剤：メチルセロソルブ及び HCO-40(2:3) 被験物質の 20 倍量、最大 100mg/L 96hLC50 (実測値に基づく) =1.1mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.43 mg/L 群：異常遊泳 (48hr 1/10、72hr 2/10、96hr 5/10) 0.82 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 5/10、48hr 10/10、72hr 2/10、96hr 2/9) 遊泳不能 (72hr 8/10、96hr 7/9)</p> <p>※水溶解度付近の濃度区で濃度依存的な毒性症状 (亜致死的) が見られており、有害性は確認できる。ただし、致死率から算出された毒性値については、分散粒子による物理的な影響と真の毒性のいずれに起因するかは判断できない。</p>				
他の毒性 情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用]</p> <p>藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>Scenedesmus subspicatus</i> 72hNOEC (ErC8)= 0.4 mg/L <p>ミジンコに対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>Daphnia magna</i> 48hEC0 \geq 0.17 mg/L • <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC = 0.07 mg/L <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>Brachydanio rerio</i> 96hLC0 \geq 0.57 mg/L 				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.069mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S51	0/68	—	0.4~5(μ g/L)
		S52	0/117	—	0.1~5 (μ g/L)
		H8	0/33	—	0.3 (μ g/L)
		H13	26/156、10/52	0.060~1.6	0.050(μ g/L)
底質	S51	10/68	0.066~1.69	0.01~0.04(μ g/g-dry)	
	S52	17/117	0.008~0.22	0.008~0.06(μ g/g-dry)	
	H8	1/33	0.103	0.09(μ g/g-dry)	
	H13	36/156、15/53	0.0068~0.077	0.0064(μ g/g-dry)	
魚類	S52	7/85	0.006~0.069	0.004~0.12(μ g/g-wet)	
	H8	0/33	—	0.058(μ g/g-wet)	
大気	S60	29/60	1.2~20	1.0~5(ng/m ³)	
	H8	5/18	37~70	32(ng/m ³)	

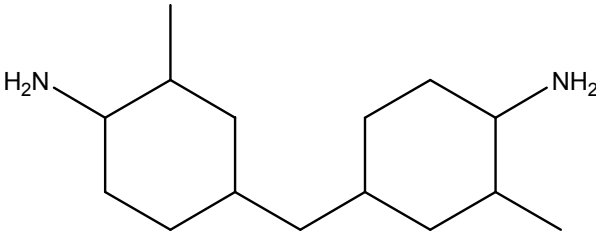
備考	※1 S52、S53、S61、H9、H14 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 対水溶解度: 0.4mg/L (20℃) Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals, 3rd ed. ed. by Verschueren, k., Von Nostrand Reinhold Company, New York(1996)
----	---

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-31	CAS No.	6842-15-5
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：プロピレンテトラマー 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201(1984) 培養方式： 振とう培養（密閉系） 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 0.040mg/L（試験液調製可能最高濃度での限度試験） 実測濃度 0.0032mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 100 μ L/L 48hErC50（実測値に基づく） >0.0032mg/L 48hNOECr（実測値に基づく） =0.0032mg/L （限度試験濃度では影響が認められなかった） ①試験実施者は、濃度の低下は揮散が原因と考察している。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間後に換水 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 0.0040、0.0072、0.013、0.022、0.040* mg/L 実測濃度 0.0020、0.0038、0.0065、0.0099、0.024mg/L（幾何平均値） ※試験液調製可能最高濃度 助剤： DMF 100 μ L/L 48hEC50（実測値に基づく） =0.015mg/L ①試験実施者は、濃度の低下は揮散が原因と考察している。		
ミジンコ 繁殖試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、毎日換水 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 0.0020、0.0042、0.0090、0.019、0.040* mg/L 実測濃度 0.0010、0.0020、0.0044、0.0096、0.020mg/L（時間加重平均値） ※試験液調製可能最高濃度 助剤： DMF 100 μ L/L 21dNOEC（実測値に基づく） >0.020mg/L ①試験実施者は、濃度の低下は揮散が原因と考察している。 ※給餌による毒性緩和があったと報告書に記載有り。		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.040mg/L（試験液調製可能最高濃度での限度試験） 実測濃度 0.014mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 100μL/L 96hLC50（実測値に基づく）>0.014mg/L ①試験実施者は、濃度の低下は揮散が原因と考察している。</p>
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=0.015mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>対水溶解度： 0.039mg/L（20℃）試験機関測定値</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-102	CAS No.	6864-37-5
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成16年7月2日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: 2,2'-ジメチル-4,4'-メチレンビス(シクロヘキシルアミン) 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として平成16年7月2日に告示済み。 吸入慢性毒性試験においてNOELが2mg/m ³ であることから、化学物質排出把握管理促進法の第二種指定化学物質に指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物質相当。		
藻類生長 阻害試験	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: OECD-TG201(1984) 培養方式: 振とう培養 純度: >99% 試験濃度: 設定濃度 0.10、0.23、0.53、1.2、2.8、6.5、15mg/L 実測濃度 0.057、0.13、0.36、1.0、2.6、5.9、13mg/L (幾何平均値) 助剤: なし 72hErC50 (実測値に基づく) = 6.1mg/L 72hNOECr (実測値に基づく) = 0.36mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 止水式 純度: >99% 試験濃度: 設定濃度 2.1、3.8、6.9、12、22、40mg/L 実測濃度 2.1、4.0、7.2、13、23、42mg/L (幾何平均値) 助剤: なし 48hEC50 (設定値に基づく) = 4.6mg/L		
ミジンコ 繁殖試験	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG211 試験方式: 半止水式、週に3回換水 純度: >99% 試験濃度: 設定濃度 0.21、0.38、0.69、1.2、2.2、4.0、7.2 [*] 、13 [*] 、23 [*] mg/L 実測濃度 0.21、0.38、0.70、1.2、2.2、4.1、7.8 [*] 、14 [*] 、24 [*] mg/L (時間加重平均値) ※追加試験における濃度区 助剤: なし 21dNOEC (設定値に基づく) = 4.0mg/L		

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 純度：>99% 試験濃度：設定濃度 1.6、2.9、5.1、9.3、17、30、100*mg/L 実測濃度 1.7、2.9、5.2、9.7、17、32、105*mg/L（幾何平均値） ※pH調整（中和）した濃度区 助剤：DMF 20mg/L 96hLC50（設定値に基づく）=22mg/L （pH調整（中和）した試験液では、96hLC50>100 mg/L）</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.9 mg/L群：異常遊泳（48hr 1/10） 17mg/L群：異常呼吸（24hr 1/10）</p>
他の毒性 情報	<p>[SIAR（OECD/HPV プログラム）より引用] 藻類に対する毒性として ・ <i>Scenedesmus subspicatus</i> 72hEC50>5 mg/L ミジンコに対する毒性として ・ <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=15.2 mg/L 魚類に対する毒性として ・ <i>Leuciscus idus</i> 22<96hLC50<46 mg/L</p>
生態影響 判定根拠	<p>脂肪族アミンを構造中に有し、かつミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEC50=4.6mg/L（設定値に基づく）であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>対水溶解度： 3.6g/L（20℃）MERCK社、Chemfinder.Comのデータベース</p>